第６学年　社会科学習指導案

授業日　平成３０年１０月２６日
授業者　佐藤　槙悟

１　単元名　　「世界に歩みだした日本」

２　目標

・日清・日露戦争，条約改正，科学の発展やそれらにかかわる人物を理解し，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことや，それによって人々の生活や社会が変化したことがわかるとともに，それらにかかわる人物の願いや働きを考えようとする。
・日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展やそれらにかかわる人物の働きから学習問題を見いだし，文化財，地図や年表，その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことやそれらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを適切に表現する。

３　評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展や，それらにかかわる人物の働きに関心をもち，進んで調べようとしている。	日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展やそれらにかかわる人物の働きについて，学習問題や予想，学習計画を考え表現するとともに，我が国が欧米の文化を取り入れつつ，我が国の近代化を願う人物の働きによって国力が充実し，国際的地位が向上したことや，それらにかかわる人物の願いや働きについて思考・判断したことを，言語などで適切に表現している。	日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展や，それらにかかわる人物の働きについて，地図や年表その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り，白地図や年表，作品などにまとめている。	我が国の国力が充実し，国際的地位が向上したことや，それによって人々の生活や社会が変化したことがわかっている。

４　単元設定の理由

（１）単元について

本単元の学習は指導要領の内容（１）「我が国の歴史上の主な事象について，人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財，資料などを活用して調べ，歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに，自分たちの生活の歴史的背景，我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深められるようにする。」（１）―ク「大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展などについて調べ，我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」を受けて設定した。

この時代の日本は，国内的には明治維新の急激な社会の変化の中で，欧米を手本に国づくりを進め，欧米と対等の地位を目指そうとしていた。また国際的には，各国が領土の拡大を目指し，植民地を獲得しようと動き，日本も朝鮮に対して武力での進出を目指していた。朝鮮の支配権を争う日本と清国，満州への進出を目指していたロシア，それが日清・日露戦争を経て，日韓併合へとつながっていった。これらの時代状況について，日本の不平等条約の改正への歩みを中心に授業を進める。領事裁判権の撤廃や関税自主権の回復は，日本が欧米と対等な立場で国を豊かにしていくために解決しなければならない課題であったことを理解させ，日本の近代化と世界の国々の動向との関係においてとらえさせたい。

本単元で，子どもは初めて諸外国との関係の中で日本を考える。各国の情勢や思惑の中，日本からみた諸外国，またそれら諸外国からみた日本と，日本を考える視点が複数化する。時代背景を示す資料や統計・グラフ・世界地図等を活用し，友達との話し合いを通して多角的に歴史的事象をとらえ考えさせたい。

（２）児童について

＜個人情報保護のため省略＞

（３）指導について

本単元では，絵図や写真の資料を導入に用いて，単元全体の課題を見出していく。ノルマントン号事件の風刺画を見て気づいたことを話し合いながら，当時の不平等条約について考えさせたい。そこから不平等条約の改正を軸に学習を進めていく。「なぜそのような条約を結んだのか」「どんなところが日本にとって不利だったのか」など歴史的な事実に対して様々な疑問を持たせることで，条約改正までの道のりや日本の国力を向上させた戦争などを意欲的に調べていけるようにしたい。

資料の提示にはＩＣＴ機器を活用し，いろいろな資料の中から必要なものを選択したり，選択した資料から児童間での考えを比較したりできるようにする。資料は外国から見た日本の様子がわかる風刺画や，日本から見た外国の様子が分かる資料などを用意し，多角的に物事を見られるようにする。

本校の研究から以下の点について特に重点的に指導する。

①　豊かなかかわり合いの工夫

ア　課題をつかみ追求する過程において，対話的な活動を取り入れる

単元を通して発問を工夫し，対話を通して個人の考えや，社会的認識が深まるよう，「A か B のどちらが～か」や，「なぜ～なのか」，「～の一番の決め手はなんだったか」など，比較したり，議論したりする必然性のある発問を行っていく。また，根拠に基づいた議論ができるように，個人・ペア・グループ・全体のどの形式で対話を行う際にも，資料に立ち返りながら自分の考えが言えるようにする。

イ　課題を解決する過程において「聴き合い」を取り入れる

気持ちよく意欲的に対話ができるように，対話は日常的に以下の 3 つの視点を示している。

〇共感する（否定しない）〇比較する（自分や友達と）〇反応する（質問・共感）

本単元では，課題を解決する際に聴き合いを取り入れた活動を意図的に行う。その際に，自分の立場を明確にし，可視化するためにネームレートを活用する。自分の考えを表す場所にネームプレートを貼って周りの児童がどんな考えかがわかるようにする。また，リバーシブルのネームプレートを活用し，考えが変容したときには，色を変えて，周りの児童がわかるようにする。

②学習内容の再構築

ウ　終末に学習したことを再構築する場面を設定する

本単元では，単元の終末に対話を通して，学習してきたことを再構築する場面を設定する。単元を通して学習してきたことが，相互に関係していることや，どの出来事も日本の国力の向上につながっていることを再認識できるようにしたい。そのために，どの出来事が不平等条約の改正に一番有効であったのかを考える活動を行う。それぞれで調べて理解してきた内容を関連付けて考えることで一層理解を深めていく。

５．指導計画（全９時間）

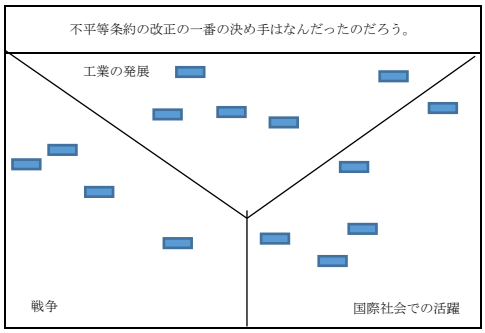
	本時の問い	○主な学習活動　・内容	指導上の留意点	評価の規準
単元を貫く問い：日本は，不平等条約改正のためにどのような努力をしたのだろう。	なぜ日本は条約の改正を目指したのだろうか。（1）	○ノルマントン号事件の絵図から，不平等条約に関心をもつ。 ○日本がどのようにして条約改正を目指したのか予想する。	・ノルマントン号事件から，自分ならどうするかをいろいろな立場から多角的に考えさせる。	〈関意態〉 ノルマントン号事件が起きた原因を考えることを通じて，日本が不平等条約の改正を目指したことに関心を持っている。
	明治時代の産業はどのように変化していったのだろう。（1）	○紡績工場の写真や工業の様子を示すグラフを見て気づいたことを話し合い，日本の産業の発展について考える。 ○日本の工業の発展には，関税自主権の回復が必要であったことを理解する。	・グラフや写真から分かることから，どのように産業が発展してきたのかを考えさせる。	＜知識理解＞ 写真やグラフから，日本の産業の発展について理解する。
	領事裁判権の承認と関税自主権撤廃，当時の日本にとってどちらが不利益だったのだろうか。（1）	○領事裁判権と関税自主権を比較することで，不平等条約の性質について表現する。 ・関税自主権の喪失と領事裁判権の容認が日本への不利益をもたらしたこと	・不平等条約は日本にどのような不利益をもたらしていたのかについて，資料等から読み取らせる。	〈知理〉〈思判表〉 不平等条約の内容について理解し，その不平等性について自分の考えを表現している。
	２つの戦争を通して，日本はどのように変わっていったのだろうか。（2）	○日本が中国やロシアと戦った理由，二つの戦争の様子や結果について調べる。 ・どちらの戦争も朝鮮の支配をめぐっての戦いであったこと。 ・戦場は主に朝鮮半島や中国北部だったこと。 ・二つの戦争を通して，日本の国際的な立場が向上したこと。 ○日本が朝鮮を植民地にして，日本の国際的な地位がどのように変わったのかを調べる。	・日本が朝鮮を植民地にしたことによって，日本の国際的な地位がどのようになったのかに気づかせる。	〈知理〉〈思判表〉 日本が朝鮮を植民地にして朝鮮の人々の誇りを傷つけたこと，勢力を伸ばして条約改正を果たし，欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解し，日本の世界における地位の向上につながったことを考え，ノートなどに表現している。
	このころの国際社会では，日本人はどのような働きをしたのだろうか。（1）	○明治の中頃から，医学などの分野で国際的に活躍した人物について調べる。 ・北里柴三郎…破傷風の治療 ・志賀潔…赤痢菌の治療 ・野口英世…病原体の研究 ・新渡戸稲造…国際連盟の事務局次長 ・夏目漱石，樋口一葉…文学小説	・医学などの研究の成果が世界に認められ，それが国力の充実や国際的な地位の向上につながることに気づかせる。	〈思判表〉 医学などの分野で国際的に活躍した日本人の存在が，国力の充実や国際的な地位の向上につながったことを考え，ノートなどに表現している。
	どうやって日本は不平等条約を改正したのだろうか。（1）	○不平等条約を改正するため，日本が欧米列強とどのような交渉をしたのかを調べる。 ・外務大臣の陸奥宗光が，領事裁判権の撤廃をさせたこと。 ・小村寿太郎が条約改正に成功して関税自主権を回復し，欧米列強と対等な関係を築くようになったこと。	・不平等条約を改正するためにどのように交渉を進め，改正の結果どのような変化があったのかについて資料や本文から読み取らせる。	〈技能〉 不平等条約が日本にもたらしていた不利益や，条約改正にかかわる陸奥宗光の願いや働きを，資料や本文から読み取ってまとめている。
	不平等条約の改正の一番の決め手はなんだろう。 **本時**（1）	○日本の国力の向上に努めた人々の思いや行動について考えたことを表現する。 ・様々な出来事を通じて，日本は国力を向上し，世界への仲間入りを果たしたこと。	・既習内容を振り返り，チャート図等を用いて，それぞれの出来事を比較させる。	〈思判表〉 日本の国力の充実や国際的な地位の向上，それらに伴う社会の変化を，人物の働きや思いと関連づけ，適切に表現している。
	不平等条約の改正のために日本がしうてきたことは本当によかったことばかりだったのだろうか。（1）	○明治の産業の発展が，人々のくらしにどのような変化をもたらしたのかを調べる。 ○日本が朝鮮を植民地にして，朝鮮の人々をどのように支配したのかを調べる。 ・学校で日本語の教育を受けさせたこと。 ・土地制度を変更し，土地を失う人が増えたこと。 ・朝鮮の人々は，独立運動を続けたこと。	・産業の発展によって近代的な生活をもたらす一方，民衆運動や民主主義を求める運動が始まったことに気づかせる。	〈知理〉 産業の発展が，さまざまな面で人々の生活に変化をもたらしたことを理解している。

６．本時の学習

（１）ねらい

不平等条約改正のために日本がしてきた努力や取り組みを，比較し考察することで，日本の国力の向上に努めた人々の思いや行動について考え，表現することができる。

（２）展開

学習活動	教師の支援（〇）と評価（☆）	◇資料
１．条約改正までの出来事を振り返る。	〇資料からどのような出来事があって，どのような内容であったのかを振り返られるようにする。 〇条約改正のために活躍した人物について振り返る。	【掲示資料】 ◇工業の発展 ◇年表 ◇日清日露戦争 ◇電子黒板
不平等条約改正の一番の決め手はなんだったのだろう。		
２．本時の課題を確認し，自分の考えをネームプレートで示す。  ※思いが強いほど外側に貼る	〇前時までに児童が考えた視点の中から選択できるように電子黒板に視点を示す。 〇自分の考えとその理由もワークシートに書くように声をかける。 〇個人で考えをまとめたものをもとにして自分の考えをネームプレートの位置で表現できるように声をかける。 〇どれかに意見が偏る時には，ゆさぶる発問をして，多角的に考えられるようにする。 〇色々な出来事について多角的に考えられるよう，学習の足跡を活用する。	◇ワークシート
３．ペアで話し合いをする。	〇考えをもてない児童には，友達の考えを聴いて納得したことを書くように声をかける。 〇自分の考えをパワーアップさせ，新たな考えができたら書き加えができるように声をかける。	
４．全体で話し合いをする。 ・工業が発展したことによって日本は武器などを大量に作ることができるようになったから。 ・戦争で勝って外国に強さを認めさせることができたから。 ・憲法ができたり，国会が開かれたりして日本の政治の仕組みが世界に認められたから。 ・新渡戸稲造のように，国際的に活躍した人物が何人も出てきたから外国は日本を認めたんじゃないかな。	〇ペアごとにまとめたことを発表するのではなく，ペアで話し合った内容を元に自分の考えを話し合えるようにする。 〇多角的な見方が出せるよう板書を整理する。 〇話し合いがとまってしまうことがあれば，教師が指名し，ネームプレートを張った位置について発言させる。 〇様子を見ながら話し合いの途中で考えが変わった児童に対して，ネームプレートを動かす時間を設定する。 〇意見の出し合いが落ち着いたところで，友達の考えに共感したことを話し合えるようにする。	
５．本時のまとめを書いて発表する。	〇それぞれの出来事の共通する点を考えてまとめられるように声をかける。 〇考えが変わった児童は，ネームプレートを移動させ，意図的に指名する。 〇共感，納得したことはまとめに書くように声をかける。 ☆ワークシート	

（３）本時の評価

十分満足と判断される 児童の具体例	おおむね満足できると 判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への 指導の手立て
日本の国力の充実や国際的な地位の向上，それらに伴う社会の変化を，人物の働きや思いと関連づけ，適切に表現している。	日本の国力の充実や国際的な地位の向上，それらに伴う社会の変化について，自分の考えを表現している。	国力の充実のために日本が行ってきたことを振り返り，自分の考えがもてるようにする。

（４）研究協議の視点

①不平等条約改正の一番の決め手はなにかを考えさせたことは，知識の再構築に有効であったか。

②ネームプレートを活用して，自分の立場や考えの変化を互いに見せ合うようにしたことは，活発な聴き合いにつなげることに有効であったか。